世界の国旗プリントシリーズ

世界の国旗クイズプリント【由来→国名】

解答

つぎの国旗の由来を読んで、 国名を答えてみましょう。

アジア

アゼルバイジャン

1918年から1920年までの国旗を修正して現在の国旗の形になった。上の青色はトルコ民族を表し、下の赤はイスラム信仰を表す。中央の赤は近代化への貢献を表現して、月のわきの八角星はこの国に住む3つの民族に由来している。

アフガニスタン・イスラム共和国

この国のたくさんの政変や国旗に影響されて、国旗は20世紀の間に16回も変更されている。一番新しい国旗は、アフガニスタン国の時のデザインをもとに、統章の色や文字の縁から部分を補正し、新憲法が施行されたのを機に掲げられた。

アラブ首長国連邦

連邦の7つの国のうち、フジャイラ以外は赤色2色の旗がある。連邦大統領旗は、中央の白の部分に、隣に国旗上の7国の星をつけたタカの国章がデザインされている。

アルメニア共和国

1918年から1921年までの間だった旗が史上初めて使われたものが現在の国旗。赤色は共和国のために流れていった人たちの血を表し、青色は永遠の国土と表現、オレンジ色は勤労と勇気を表現してデザインされている。

イエメン共和国

南イエメンと北イエメンの統合時にできた旗である。赤色は自由と南北の統一のために流れた血を表し、白は穏やかな未来を表現。黒は、以前の暗黒の時代をイメージしてデザインされている。

イスラエル国

19世紀末のユダヤ建国運動時に使用されたものがモチーフ。白と青は伝統的な旗として使うショールの色に由来し、真ん中には「ダビデの盾」が配置されている。ダビデの盾は、ユダヤ人が昔からお守りとして大切にしてきたものである。

イラク共和国

1958年の革命で使われた旗の赤は勇気を、白は寛容を、黒はイスラム教の伝統と栄光を表現している。国旗の真ん中には、イスラム教を表す緑色のアラビア書道クーフィー体で、「アラーの神は偉大なり」と書き加えられている。

イラン・イスラム共和国

横に3色配置された旗の赤は勇気を、白は寛容を、黒はイスラム教の伝統と栄光を表している。国旗の真ん中には、イスラム教を表す緑色のアラビア書道クーフィー体で、「アラーの神は偉大なり」と書き加えられている。

インド

サフラン色は、自己犠牲の精神と勇気を表し、緑は豊者徳さの信仰、白は平和と真実を表現している。しかし、本来はサフラン色と緑はそれぞれヒンドゥー教とイスラム教徒に由来している。

インドネシア共和国

13世紀にできたマジャパヒト王国が赤と白の2色の国旗を使ったのが始まり。現在の国旗は、1949年にインドネシア独民党がシャツで最初に掲揚した。配色はモチコ国旗と同じであるが、インドネシア国旗は縦横比が2：3となっている。

ウズベキスタン共和国

上段の青は生命の源である水を表し、中段の白は平和を、下段の赤は戦う意かな自然を表す。間の赤い線は、生命力を表現。新月はイスラム教国であることと国の独立のシンボルであり、12個の星は王道十二宮に由来している。

オマーン国

1970年までは、赤一色だけの国旗が採用されていた。赤は侵入者から守るための争いを表し、緑は実りの豊かな国土を表現。白は平和と繁栄のシンボルで、旗竿側に紋章が描かれている。これは、オマーン古来の剣と短剣カットシルを組み合わせた国章である。

カザフスタン共和国

青色は、カザフスタンの遊牧民が見ていた澄みきった空の色で、平和と幸福のシンボルである。真ん中に描かれた黄色のウシと太陽は、それぞれ自由と明るい希望を表現し、隣国のウラルスク文様はこの国伝統的な装飾となっている。

カタール国

現在ではエビ茶色が正式な色であるが、もともとは赤が太陽光で退色したものといわれている。国旗頭の9つのギザギザ模様は、この国が9つの行政区で構成されていることを表すという説と、1971年に使用されていたものと同じ。

カンボジア王国

独立しているから何回も変更されているが、世界遺産のアンコールワット遺跡は、政権が変わってもいつも国旗のデザインに採用されていた。旧王国時代の国旗が復活したもので、1948年から1970年に使用されていたものと同じ。

キプロス共和国

旗の中央にキプロス島をかたどったデザインが描され、その下にオリーブの枝がふられている。国連調の発想と似通っている。オリーブの枝は、トルコ系とギリシャ系の南北の平和と協力を表し、青色は国土からの特産品や銅などの豊富な地下資源を表現している。

キルギス共和国

赤地に、黄色で キルギス人の伝統的な移動式住居「ユルト」の天井と太陽が描かれている。太陽の数は、ちょうど40の光線は、この国の代表的な40部族を表している。キルギス民族を統一した英雄マスタンが赤旗を使用したことに由来しているといわれている。

クウェート

上下の青いラインは平和への願いを表し、白は勇気、黒は敵を打ち負かすことを表現。真ん中のマークは海神ポセイドンの三又の矛である。

サウジアラビア王国

地色の緑は、イスラム教の聖なる色である。右から左にアラビア文字で「アッラーのほかに神は存在しない」マホメット（ムハンマド）はアッラーの預言者である」と書かれている。剣は聖地のメッカを守護する尊厳を持っている。

ジョージア

12世紀から14世紀にかけて使われた中世グルジア国旗（サアカシヴィリ統領が新しふる方の「国民運動」の党旗にもなっている）をもとにして作られた。中央の大きな赤十字の四隅にその小さな赤十字を描いています。エルサレム十字と呼ばれている。

ジンバブエ共和国

白と青はフランス革命の後から使用されている。青は空とアドリア海を表し、白はティターノの雪とたなびく雲、さらに純粋さを表現している。赤は同盟国による国旗の象徴。

スイス連邦

バチカンの国旗は正方形。19世紀の前期に教皇ピウス7世によって黄と白の旗に決められた。右側の国章には、三重冠と呼ばれる教皇が公式行事の際に被る冠が配され、交差する金と銀の鍵は聖母画で教皇が次配するごとを意味している。

スウェーデン王国

ローマ皇帝が1240年にシュピーツ州旗として制定した旗がもとになって、1848年連邦憲法となった。陸上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は比率が2：3で赤み、十字は十リスト教のシンボル。

スペイン

横長の十字架はスカンディナヴィアンクロスとの呼び名があり、北欧諸国に共通して使用される。青と黄色は国章の色に由来しています。青は湖を表し、黄色は金色に輝く太陽を表現。毎年6月6日は国旗の日として祝祭を行う。

スロバキア共和国

「盾と全の国」とも呼ばれ、赤と黄色は13世紀当時の4つの王国の王冠に使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランコ時代はワシの マークが入っていた。現在の紋章は古くからスロバキアのダブルクロスと山の山がデザインされている。

スロベニア共和国

1848年にはじめて掲げられた旗は、スラブ民族のシンボルである白・青・赤の汎スラブ色の3色横じま模様だった。チェコと分かれたときに、ロシア連邦の国旗と見分けがつくように国章をつけた。現在には、キリスト教を表現するダブルクロスと山の山がデザインされている。

セルビア共和国

1930年に作られたセルビア公国の国旗がもとになっている。赤・青・白はスラブ民族独立の象徴となる色である。赤色は少やかな雪りに国章が配置され、国章には王冠と双頭のワシが掲に座を持った「カラジョルジェビッチ家の紋章」が描かれている。

チェコ共和国

旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま承継している。連邦共和国当時、1990年から1993年までのチェコ共和国の国旗は 紅 白 の横２分割の旗だった。

チャド共和国

旧宗主国だったフランス国旗の国柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の青色に変更してできた。真ん中に描かれた紋章国章と北部地方を表し、青色は国土を流れる大河シャリ川と、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。

中央アフリカ共和国

フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の緑ラインは、国章にも描かれている、南部地方の国民を表し、黄色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。

チュニジア共和国

白と赤は中世から使用されてきた色。ボーランド分割以降からは、外国の支配から独立を目指す象徴となった。国章はイスラム教を象徴する月と星。その三角形は赤色の部分に描かれ、星の数は8本で、3つの星はスンニ派・ホンダナ才島・ビヤヤ島の象徴。

トーゴ共和国

赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の縞ラインでこの国の5つの地方を表現している。白地に赤い星はスンニ派国旗を配置して、旗竿に星を2つ配した旗の旗だった。

ナイジェリア連邦共和国

歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていた。1999年に月と星の大きさを変えた、三日月はフェニアス人の美の女神クニスのシンボルである。

ナミビア共和国

独立時にコンテストを行い1000ほどの応募が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は国家建設の決意表明と独立闘争で流された血と、国旗の下の国土を表現している。白線は平和と統一を表現。真ん中の円は太陽を表現。この国の熱帯地方である ことの象徴である。

ニジェール共和国

オレンジ色は史都のサハラ砂漠を表し、中段の白は平和と純潔と国名を表している。下段の緑は この国の豊かな農地を表現。真ん中の円は太陽を表し、この国の熱帯地方である 事と四時に、革命の原理と恒常性の象徴である。

ブルキナファソ

以前オートボルタとして独立を果たすが、1983年に革命が起こって国名と国旗を変更した。赤は革命闘争で流された尊い血を表し、緑は豊かな国土を表す と同時に、革命の原理と恒常性の象徴である。

ブルンジ共和国

王国時代には真ん中の円の中にモロコシと太鼓がえがかれていたが、革命後には国内のツツ族・ツチ族 の団結を表現する国マークに変更された。現在は、国内の団結と、国旗はよき民族の希望と発展を、白い円は平和を表現している。

ベナン共和国

社会主義政権が崩壊したときに独立時の旗・ヤシ旗 の旗竿を国旗にしたが、革命後には国内の緑色旗やツツ族を表し、青色は北部のサバンナ地帯を、赤は南地域の緑色と北部双方との団結の ために流された血を表現。

ベルギー王国

中世時代のリトアニア大公国だった地域の国旗。今は1918年の独立時の旗の上部に国章と勇気を表し、緑は豊かな森と希望を、黄色は小麦の実る平野と自由の象徴である。

ボツワナ共和国

赤と青は、18世紀のヴェンツェル大公の使用人の制服にちなんだもので、それぞれ晴空で恵える 文と青空を表現している。1936年のオリンピックでは、パイオの国旗として扱られもしかった元の で翌年左上に大公の冠を配した、冠状紋治章と国旗に一体となることを表現。

ボツワナ共和国

1966年以降3つめの旗で、独立したときのレソト帰のデザインを復活させた。青は空と雨を表し、白は平和を、緑は豊かな国土と繁栄を、黒はアパルトヘイトに対する闘いを表現している。3色の横ぬは、3：4：3で真ん中の白ラインが幅広になっている。

ボツワナ共和国

アメリカ合衆国で解放された黒人の奴隷が国を作ったので、星条旗の影響が大きい。11本の紅白の縞は、独立宣言に署名した11人を表現している。

ボツワナ共和国

2011年7月に独立して国連加盟国になった、南はブラックアフリカを表し、白は南アフリカ共和国と白の上半和を、赤は革命のために流された血を、緑は豊かな国土を表現。青い3角形はナイル川を表し、黄色のベツレヘムの星は国民の団結の象徴である。

ボツワナ共和国

1999年にルワンダ政府は国旗を変更するように求めたが、2年かかってようやく制定された。青は青空と平和を表し、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁栄を、右上の金色の太陽は未来への希望と統一と無知との戦いを表現している。

ルワンダ共和国

レソト王国

ヨーロッパ

アイスランド共和国

もともとは、青に白十字の旗を、独立戦争の際のトルコの赤い新月旗に対抗するような形で揚陽されていた。9本の横線は、独立戦争時代の「Ｅｘｕｐｒｏｐｉａ ｈｅｌｅｕｔｈｅｒｏｓ」（自由か死か）の9音節に由来する。

アイルランド

赤・白・青は、スラブ地域で頻繁に使用される色である。海上で使用される国旗の比率は2：3である。真ん中に配置された国章は、古クロアチアの5地域を表現する紋章と、鉄鎖の模様であるチェック柄がデザインされている。

アルバニア共和国

白と青はフランス革命の後から使用されている。青は空とアドリア海を表し、白はティターノの雪とたなびく雲、さらに純粋さを表現している。双頭の国旗には、3つの峰と砦、王冠などがデザインされた紋章がついている。国旗の真ん中には1つタリア座で「自由（LIBERTAS）」と書かれている。

アンドラ公国

国旗にゲニア共和国の国民を表し、赤は独立して流された血を、緑は農業と肥沃な大地を表す。白線は平和と国民の統一を表現している。真ん中の紋章は4つの盾と1つの盾で構成されている。4つの盾は歴史的に関係の深い4つの地域を表現。白は北部と南部の統一と団結を表している。

イギリス
（グレートブリテン・北アイルランド連合王国）

イングランドの白地に赤十字、スコットランドの青地に斜め赤十字を組み合わせた、アイルランドの白地に斜め赤十字を足して連合王国を表現している。

イタリア共和国

緑・白・赤の3色は、ナポレオンが作ったチザルピーナ共和国国旗からきています。フランス国旗の影響も受けている。イタリア市民用の海上国旗には、4つの海洋都市をモチーフにした紋章がデザインされている。

ウクライナ

青色と黄色は1848年に独立を目指した民衆がシンボルカラーとして使用したもので、1918年から1921年までは臨時政府の国旗として使用。1996年に比率を変更してその形になった。青は空を、黄は小麦畑を表している。

エストニア共和国

1884年にエストニア学生会によって制定された、ソ連邦から再独立した際に主権国家として復活した。青色は空と自由を、黒は暗闇の大地を、白は自由への思いと明るい未来のシンボルとなっている。

オーストリア共和国

1230年から1918年まで使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランコ時代はワシのマークが入っていた。現在の紋章はスペイン半島の5つの王国の紋章とスラクレスの柱をデザインしたもの。

ガボン共和国

上段から赤・白・赤で構成されていて、十字架が連征した時代に、オーストリア近傍の白の赤が最も濃く表現されている。現在では、赤は、国旗の南部に赤を表す、白は自然の象徴、緑は豊かな森林資源を表現している。

カメルーン共和国

左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成されている。独立後何回か変更されているが、2008年に現在の形になった。緑は国の南部に赤を表す、黄色は緑と赤に挟まれた国の中央部を表す。星は国旗の統一と団結を表している。

ギリシャ共和国

現在ある国旗の中で最古といわれ、スカンジナビアクロスの先駆け。1854年以降は市民用としても使われている。1219年のエルニア王国の旗争のときに、国王のもとに旗が降りてきたのをきっかけにして近転勝利したという言い伝えがある。

キプロス共和国

島は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表現している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。白線は イスラム教徒の象徴である、金色は緑と白線の金属である。星は、国旗はイスラム教徒の象徴を表現している。緑は森林、青色は地下資源を表している。

ギニア共和国

白は平和の象徴で、青は空と海を、緑は地球を、赤い星のマークは国家の独立と統一を表現している。さらに、青はマリネイリック博を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

ギニアビサウ共和国

緑は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。赤い星は イスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

ケニア共和国

1956年～1970年までは ガボンの国旗でも名刻ましたようなデザインだったが、アラブの統一を願って赤・白・緑 のクロスアフラカの国章を配置した。赤は革命によって流された血と国民を、白は平和と未来への光を、黒はアフリカ人の人種を、緑は この国はイスラム教徒の聖地を表現している。

コートジボワール共和国

旧宗主国であったフランスの国旗を基本としている。3本の縞は の構造である「団結・規律・労働」に対応。左側のオレンジは 北部サバンナの緑地を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は平和と南部の統一と団結を表している。

コモロ連合

独立したときの旗が廃止した、左側の青の三角形は インド洋を表し、緑は農業と天然資源を表現している。緑は農業と天然資源、白は平和を、赤は独立闘争で犠牲になった尊い血を表現している。真ん中の紋章には緑の月と白い星が描かれている。星などの数字は全部で四 個を組み合わせた。

コンゴ共和国

左下から 放射状に5色が配置されていて、上から順に青は空と海を表し、黄色は大地を、赤は革命によって流された血と国民を、緑は国土を表現している。独立してから3番目になるこの国旗は、政党が頻繁するために全政党の旗色を組み合わせた。

コンゴ民主共和国

上段から白・緑・赤に染め分けた3色旗で、ロシア帝国の国旗をもとにしてデザインされた。白は純潔と親善と平和を表し、緑は農業と森林と国土を、赤は革命と闘争と血を表現している。青色は星が輝かしい未来のシンボルとなっている。

サントメ・プリンシペ民主共和国

地色は赤色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのマリ帝の居住地区があることを指していて、国土と民族の統一を表現。独立時の国連への賛成を表している意味で、国連旗の青色を採用した。

ザンビア共和国

タンザニーカとザンジバル海国が合併したので、2つの国の国旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はインド洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。

シエラレオネ共和国

緑は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。星は イスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

ジブチ共和国

フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の緑ラインは、国章にも描かれている、南部の国民を表し、青色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。

ジンバブエ共和国

星は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。星は イスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

スーダン共和国

歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていた。1999年に月と星の大きさを変えた、三日月はフェニアス人の美の女神クニスのシンボルである。

セネガル共和国

独立時にコンテストを行い1000ほどの応募が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は国家建設の決意表明と独立闘争で流された血と、国旗の下の国土を表現している。白線は平和と統一を表現。真ん中の円は太陽を表現。この国の熱帯地方である ことの象徴である。

ソマリア連邦共和国

以前はイギリス領ソマリランドとイタリア領ソマリアが独立時に合併したが、国民投票の末にそれぞれ分離した。現在は、ソマリランドを、青はイタリア領ソマリアを表している。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はインド洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。

タンザニア連合共和国

1964年から1971年後期の国旗に基づく青の国旗を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立闘争で流された尊い血を、黄色は豊かな国を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。

チェコ共和国

旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま承継している。連邦共和国当時、1990年から1993年までのチェコ共和国の国旗は 紅 白 の横２分割の旗だった。

チュニジア共和国

白と赤は中世から使用されてきた色。ボーランド分割以降からは、外国の支配から独立を目指す象徴となった。国章はイスラム教を象徴する月と星。その三角形は赤色の部分に描かれ、星の数は8本で、3つの星はスンニ派・ホンダナ才島・ビヤヤ島の象徴。

トーゴ共和国

赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の縞ラインでこの国の5つの地方を表現している。白地に赤い星はスンニ派国旗を配置して、旗竿に星を2つ配した旗の旗だった。

トルコ共和国

はじめの国旗は青色の1色だった。1906年に白と黒の斜めラインが加わり、1959年には中央に国章を配するようになった。国章はイスラム教を象徴する月と星に、平和を象徴する両手を添えるデザインとなっている。

トルクメニスタン

独立してから3つめの国旗にあたる。緑色の縁はイスラム教を表し、斜月は明るい未来を、5つの星はムの5部族を表している。旗竿側に伝統意匠の絨毯模様が描され、5部分はトルメンの主な5部族を表現。模様の下側にはオリーブの枝が配され、永世中立のシンボルとなっている。

トルコ共和国

アイ・イルディス（月と星）と呼ばれる、オスマン帝国の初代皇帝の夢に三日月と星が出てきて、将来この王朝がヨーロッパを征服することを予言したという逸話が残っている。

ドミニカ共和国

1932年の自治憲章によってから国旗を6回変更している。ほとんどが、青と白の3方シマと赤の十字架を使用していて、現在の国旗は1958年から1961年までのアラフ王在任中に制定された物です。3つの主な、赤は国を守る 同を表し、白は国民の善意を、黒は迷走の禁令、青は平和と繁栄の象徴である。白は平和と全ての国民の団結を表現している。

トリニダード・トバゴ共和国

昔は真っ白だった1959年に現場された旗が、マレーシア連邦の一時期には国旗として使用されていた。赤は世界全民族の友好と平等を表し、白は海と空の美しさを表現。3つの星は、3つの主な人種を表している。赤は国旗の象徴を、黒は迷走の禁令、白は国民の善意を、星は主な人種と諸国の統一を表現。

ニカラグア共和国

独立した3年後に、イスラム教徒を表す緑とキリスト教徒を表すオレンジ（サフラン色）のラインが採用された。例をもうライオンは、この国のシンハラ人の伝説に出てくる動物である。四隅の星は 各国家で、上下左右を反対にしても同じに見える国旗に変えたという逸話が残っている。

ハイチ共和国

フランスからの独立時は、青・白・白の3色旗から白を抑した横2色の旗だった。青は黒人を表し、白は混人を表現するためのものだった。

パナマ共和国

コロンビアから分離独立する際にアメリカの後押しがあったので、星条旗の影響を強く受けている。赤は民主主義を表し、青は保守党を表現。白は両政党の和解の末期の国王である 高原にあるもの。

バハマ国

上下の2本の青ラインは、バハマ周辺の美しい大西洋とカリブ海を表現。中段の黄色のラインはこの国の魚々と砂浜を表し、左側の黒い3角形は国民の強い団結の象徴である。独立する時は英国船舶旗の上にバッジを配した旗を使用。

バルバドス

独立時に実施されたコンテストで優勝した美術家のグラントリ・ブレスコットの図案を採用。青はカリブ海と大洋と空を表し、黄色は砂浜と富を表現。真ん中のマークは海神ポセイドンの三又の矛である。

ブラジル連邦共和国

青い円は天体を表し、リオデジャネイロの空を1889年11月15日の制定地域の外から見た形を表現している。27の星は連邦を構成している26州と1連邦直轄区の象徴である。緑は森林、黄は鉱物資源を表現。

ベネズエラ・ボリバル共和国

アフリカ

アルジェリア民主人民共和国

1920年に反フランス運動の指導者となったメッサリ・ハジが作り、民族政党独立党によって掲げられた旗を、独立を機に国旗にした。この地域では、新月と星は幸福の象徴とされいる。

アンゴラ共和国

汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。中央の黒地はアフリカ諸国によって連いが、この国では赤は労働と献身、黄色は豊富な鉱物資源と豊富な地下資源を表現している。

ウガンダ共和国

汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑で構成されている。ギニア・カーベルデ・アフリカ人独立党（PAIGC）の旗にもとづいて考案された。赤は赤道のサバンナを表し、緑は赤道の森林地帯を表現。白は海岸地帯を表し、黒星は独立アフリカ先立のシンボルである。

エジプト・アラブ共和国

黒はケニア共和国の国民を表し、赤は独立して流された血を、緑は農業と肥沃な大地を表す。白線は平和と国民の統一を表現している。真ん中の紋章は4つの盾と1つの盾で構成されている。4つの盾は歴史的に関係の深い4つの地域を表現。白は平和と統一と団結を表している。

エチオピア連邦民主共和国

旧宗主国であったフランスの国旗を基本としている。3本の縞は の構造である「団結・規律・労働」に対応。左側のオレンジは 北部サバンナの緑地を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は平和と南部の統一と団結を表している。

エリトリア国

独立してから6回国旗が変わっているが、どれも緑と赤の2色が デザインされている。緑は大陸と豊かを表し、白は自由と統星を、赤は独立のために流された血を、青はインド洋を表している。

ガーナ共和国

コンゴ人民共和国からコンゴ共和国に国名が変ったのをきっかけに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に変えた。緑は豊かな森林資源と農業を、黄色は豊富な天然資源と太陽、赤は革命と闘争で流された尊い血と国民を表現している。

カーボベルデ共和国

独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年後期の国旗に基づく青の国旗を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立闘争で流された尊い血を、黄色は豊かな国を表現している。

ガボン共和国

汎アフリカ色で構成され、緑は豊かな森林資源と農業を表し、上の緑は豊かな農作物を、左側の赤は独立運動と平等を表現している。中央の3本の縞ラインは赤道を表している。右上の白は広大な大地と自然を表現。1991年までの人民共和国時代には ハンマーとクワをデザインした赤旗だった。

カメルーン共和国

地色の緑は豊富と天然資源を表し、上の緑は豊かな農作物を、左側の赤は独立運動と平等を表現している。中央の3本の縞ラインは赤道を表している。右上の白は広大な大地と自然を表現。1991年までの人民共和国時代には ハンマーとクワをデザインした赤旗だった。

ギニア共和国

赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は豊富な鉱物資源と豊富な地下資源を表現している。白は平和と統一と団結を表している。

ギニアビサウ共和国

緑は豊富と緑を表し、黄色は豊富な鉱物資源と豊富な地下資源を表現している。白は平和と統一と団結を表している。赤い星は国旗の象徴である。

ケニア共和国

1956年～1970年までは ガボンの国旗でも名刻ましたようなデザインだったが、アラブの統一を願って赤・白・緑 のクロスアフラカの国章を配置した。赤は革命によって流された血と国民を、白は平和と未来への光を、黒はアフリカ人の人種を、緑は この国はイスラム教徒の聖地を表現している。

コートジボワール共和国

第2次世界大戦のさなかに、イギリス軍に追いつめられたようなデザインだった。3色の縞は の構造である「団結・規律・労働」に対応。左側のオレンジは 北部サバンナの緑地を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は平和と南部の統一と団結を表している。

コモロ連合

独立したときの旗が廃止した、左側の青の三角形は インド洋を表し、緑は農業と天然資源を表現している。緑は農業と天然資源、白は平和を、赤は独立闘争で犠牲になった尊い血を表現している。真ん中の紋章には緑の月と白い星が描かれている。星などの数字は全部で四 個を組み合わせた。

コンゴ共和国

左下から 放射状に5色が配置されていて、上から順に青は空と海を表し、黄色は大地を、赤は革命によって流された血と国民を、緑は国土を表現している。独立してから3番目になるこの国旗は、政党が頻繁するために全政党の旗色を組み合わせた。

コンゴ民主共和国

上段から白・緑・赤に染め分けた3色旗で、ロシア帝国の国旗をもとにしてデザインされた。白は純潔と親善と平和を表し、緑は農業と森林と国土を、赤は革命と闘争と血を表現している。青色は星が輝かしい未来のシンボルとなっている。

サントメ・プリンシペ民主共和国

地色は赤色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのマリ帝の居住地区があることを指していて、国土と民族の統一を表現。独立時の国連への賛成を表している意味で、国連旗の青色を採用した。

ザンビア共和国

タンザニーカとザンジバル海国が合併したので、2つの国の国旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はインド洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。

シエラレオネ共和国

緑は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。星は イスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

ジブチ共和国

フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の緑ラインは、国章にも描かれている、南部の国民を表し、青色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。

ジンバブエ共和国

星は豊富と緑を表し、青色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。星は イスラム教徒であるエチオピア系のアファール族を表現して、白は平和と統一を表現している。赤い星は国旗の象徴である。

スーダン共和国

歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていた。1999年に月と星の大きさを変えた、三日月はフェニアス人の美の女神クニスのシンボルである。

セネガル共和国

独立時にコンテストを行い1000ほどの応募が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は国家建設の決意表明と独立闘争で流された血と、国旗の下の国土を表現している。白線は平和と統一を表現。真ん中の円は太陽を表現。この国の熱帯地方である ことの象徴である。

ソマリア連邦共和国

以前はイギリス領ソマリランドとイタリア領ソマリアが独立時に合併したが、国民投票の末にそれぞれ分離した。現在は、ソマリランドを、青はイタリア領ソマリアを表している。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青はインド洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。

タンザニア連合共和国

1964年から1971年後期の国旗に基づく青の国旗を明るく変更。青は平和を表し、赤は独立闘争で流された尊い血を、黄色は豊かな国を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。

チャド共和国

旧宗主国だったフランス国旗の国柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の青色に変更してできた。真ん中に描かれた紋章国章と北部地方を表し、青色は国土を流れる大河シャリ川と、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。

中央アフリカ共和国

フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の緑・黄・赤を組み合わせて5色で構成され、中央の緑ラインは、国章にも描かれている、南部の国民を表し、青色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。

チュニジア共和国

白と赤は中世から使用されてきた色。ボーランド分割以降からは、外国の支配から独立を目指す象徴となった。国章はイスラム教を象徴する月と星。その三角形は赤色の部分に描かれ、星の数は8本で、3つの星はスンニ派・ホンダナ才島・ビヤヤ島の象徴。

トーゴ共和国

赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の縞ラインでこの国の5つの地方を表現している。白地に赤い星はスンニ派国旗を配置して、旗竿に星を2つ配した旗の旗だった。

トルコ共和国

白と赤は中世から使用されてきた色。ボーランド分割以降からは、外国の支配から独立を目指す象徴となった。国章はイスラム教を象徴する月と星。その三角形は赤色の部分に描かれ、星の数は8本で、3つの星はスンニ派・ホンダナ才島・ビヤヤ島の象徴。

ナイジェリア連邦共和国

歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていた。1999年に月と星の大きさを変えた、三日月はフェニアス人の美の女神クニスのシンボルである。

ナミビア共和国

独立時にコンテストを行い1000ほどの応募が集まった。青は希望と大西洋を表し、赤は国家建設の決意表明と独立闘争で流された血と、国旗の下の国土を表現している。白線は平和と統一を表現。真ん中の円は太陽を表現。この国の熱帯地方である ことの象徴である。

ニジェール共和国

オレンジ色は史都のサハラ砂漠を表し、中段の白は平和と純潔と国名を表している。下段の緑は この国の豊かな農地を表現。真ん中の円は太陽を表し、この国が熱帯地方である 事と四時に、革命の原理と恒常性の象徴である。

ブルキナファソ

以前オートボルタとして独立を果たすが、1983年に革命が起こって国名と国旗を変更した。赤は革命闘争で流された尊い血を表し、緑は豊かな国土を表す と同時に、革命の原理と恒常性の象徴である。

ブルンジ共和国

王国時代には真ん中の円の中にモロコシと太鼓がえがかれていたが、革命後には国内のツツ族・ツチ族 の団結を表現する国マークに変更された。現在は、国内の団結と、国旗はよき民族の希望と発展を、白い円は平和を表現している。

ベナン共和国

社会主義政権が崩壊したときに独立時の旗・ヤシ旗 の旗竿を国旗にしたが、革命後には国内の緑色旗やツツ族を表し、青色は北部のサバンナ地帯を、赤は南地域の緑色と北部双方との団結の ために流された血を表現。

ベルギー王国

中世時代のリトアニア大公国だった地域の国旗。今は1918年の独立時の旗の上部に国章と勇気を表し、緑は豊かな森と希望を、黄色は小麦の実る平野と自由の象徴である。

モーリタニア共和国

赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めにツロモンの印章というイスラム伝統の線を間に挟まれた赤旗を配した。赤旗用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の三日月がデザインされている。

モーリタニア・イスラム共和国

赤旗は今の王朝が300年以上使用していて、20世紀の初めにツロモンの印章というイスラム伝統の線を間に挟まれた赤旗を配した。赤旗用の海上国旗には、旗竿の上部に黄色の三日月がデザインされている。

モーリシャス共和国

赤は独立時国旗の変更はない。上段から順に赤は独立のために流された血を表し、青はインド洋を、黄色は太陽の光と自由を、緑は農業を表現している。独立以前はイギリス領国旗を採用の上部に配して、旗面に紋章をつけたデザインだった。

モザンビーク共和国

緑は豊富と緑を表し、黄色は豊富な紀勢物資源、お海就物資や環境になった国民の象徴を表している。白は平和と全ての国民の団結を表現している。黒はアフリカ大陸を表現している。3色の横ぬは、3：4：3で真ん中の白ラインが幅広になっている。

モロッコ王国

ユーゴスラビア連邦

リトアニア共和国

リビア

リベリア共和国

ルクセンブルク大公国

ルーマニア